

月刊しばうら

2016年 1月号

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。
旧年中は格別のご厚情を賜り
有り難く御礼申し上げます
本年も変わらず御指導ご鞭撻を
お願い申し上げます

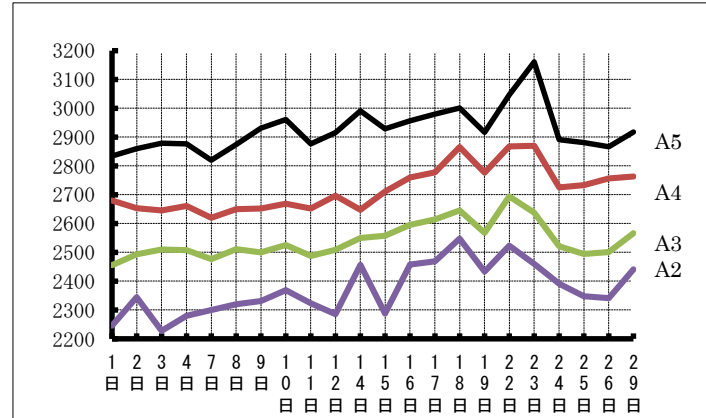
平成二十八年元旦

大動物事業部

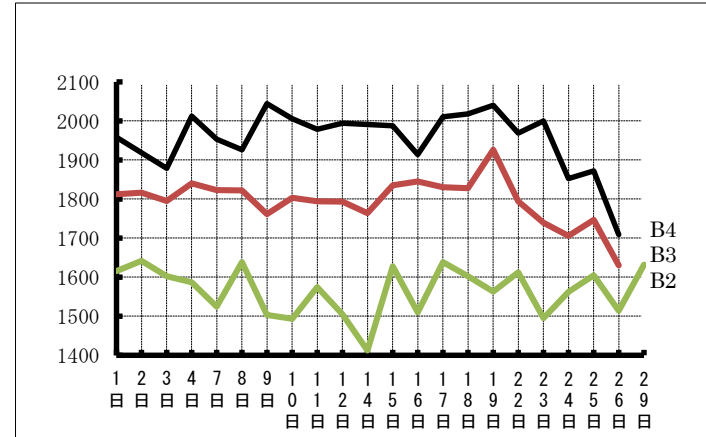
＜12月の相場動向＞

2015年の牛枝肉相場を振り返ってみると、絶対的な供給不足から和牛A3等級が年間を通して加重平均2,000円台（税込）を割れることなく、牛枝肉相場全体を押し上げる要因となった。秋口から年末の最需要期に向けて銘柄や産地格差が多少あったものの、肥育農家にとっては枝肉の仕上がり状態を正常以上に評価されることとなった。12月の牛枝肉相場は、11月後半から12月商戦の手当買いが活発となりさらに一段上げる加熱相場を形成した。和牛は品薄感の高まる中で比較的潤沢な4等級に買いが集中し2,700円台、3等級も2,500円台に乗せる枝肉相場となり、高級品和牛についても銘柄牛を中心に高値相場を形成した。交雑種は上物規格を中心に高水準の相場となり上昇率はいくらか鈍化しているものの強気な相場を維持した。

和牛去勢 日別相場表（12月）



交雑去勢 日別相場表（12月）



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,928円	119.9%	105.9%
A4 2,718円	124.0%	105.2%
A3 2,544円	128.7%	103.8%
A2 2,371円	134.6%	102.0%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,957円	122.7%	104.5%
B3 1,792円	124.1%	102.2%
B2 1,567円	122.9%	97.2%
乳牛去勢月平均		
B3 上場なし		
B2 865円		

＜1月の全国出荷頭数予測＞

家畜改良センターの個体識別データから予測される平成28年の出荷頭数は、平成27年より1~2%近く減少すると予測している。黒毛和種は年間通して前年並み~5%減となる見通しで、前年から1万頭程度少なくなると予想される。一方、交雑種は素牛や初生牛価格の高騰で平成25年から交配率が高まっており、これらが出生頭数に現れたものとみられ前年比7%程増加、乳用種は頭数減少傾向に歯止めがかかる兆しはみられない。よって平成28年の出荷頭数は黒毛和種と乳用種が減少する半面、交雑種は増加が見込まれ、わずかな減少となる見通しをしている。農畜産業振興機構によると、1月の出荷予測頭数は、3.3%減の8万2,500頭と予測。品種別にみると和牛は5.9%減の3万2,900頭、交雑種は1.1%増の1万7,800頭、乳用種が3.2%減の3万200頭としている。東京食肉市場の1月と畜頭数は6,750頭を予定しています。

＜1月の牛枝肉相場見通し＞

牛枝肉価格の高騰による消費者の牛肉離れや年末年始の家計出費などの影響による消費減退などが懸念される中、全国的な出荷頭数は減少の見通しにあり絶対的な供給不足などからみても和牛3・4等級では引き続き堅調な相場展開が予測される。また上物規格和牛については牛肉需要の減退を背景に下降基調に向かうとの見方。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700~2,800	B4	1,700~1,800
A4	2,600~2,700	B3	1,600~1,700
A3	2,450~2,550	B2	1,450~1,550
A2	2,200~2,300		
乳牛去勢			
B3	1,150~1,200		
B2	1,000~1,100		

＜1月の牛肉輸入量予測＞

財務省の貿易統計による11月の牛肉通関量は前年同月比8.4%増の4万4,695tと上回り、前月比も3,240tの増加となった。チルドは600t弱減少した半面、フローズンが3,800tほど増加となり、年末需要期に向けた手当と一部未通関玉の繰入れがあったとみられる。農畜産業振興機構による1月の牛肉輸入数量予測では前年比4.4%減の3万1,600t。内訳はチルドが前年の米国西海岸の港湾労使交渉による物流停滞の影響があった反動で8%増の1万3,800t、フローズンは在庫量が多いことを背景に12%減の1万7,900tと予測している。

輸入牛肉通関量	11月	前年同月	前年同月比	
フローズン	豪州	14,399	12,486	115.3%
	米国	9,502	8,418	112.9%
	その他	2,405	2,628	91.8%
	合計	26,306	23,532	111.8%
チルド	豪州	11,621	10,689	108.7%
	米国	5,955	6,188	96.2%
	その他	813	834	97.5%
	合計	18,389	17,711	103.8%

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、11月の全国と畜頭数は141万233頭（前年同月比109.5%）となり前年より増加した。

また、11月分の豚肉通関実績は、総量で6万5,645t（前年同月比122.8%）と前年より大幅に上回った。うちチルドが2万8,529t（同127.9%）と増加した。内訳は米国が1万6,909t（同118.9%）、カナダは1万692t（同148.6%）、メキシコが924t（同104.2%）と増加。フローズンは、3万7,115t（同119.1%）と前年を大きく上回り、デンマークが1万236t（同132.4%）、米国が3,657t（同80.4%）、カナダが3,754t（同124.6%）、メキシコが4,930t（同122.3%）であった。

＜12月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	66,900	550	547	910
2日	66,100	585	576	710
3日	69,000	578	567	935
4日	69,000	577	555	1,125
7日	66,900	569	560	784
8日	68,500	580	562	1,021
9日	68,400	587	566	920
10日	68,600	587	560	687
11日	69,000	566	529	1,026
12日	-	554	521	748

上旬の全国と畜頭数は1日あたり6万8,000頭と前年を下回る頭数であった。また、当市場も平均880頭と前年を下回る上場頭数であった。年末に向けた手当てでバラ、カタローズ引き合いがさらに強まった。一方、ウデ、モモといったスノ物は動きが鈍く、投げ物もみられた。相場も550円から580円まで上がってきたものの、週末にかけ550円に落ち着いた。

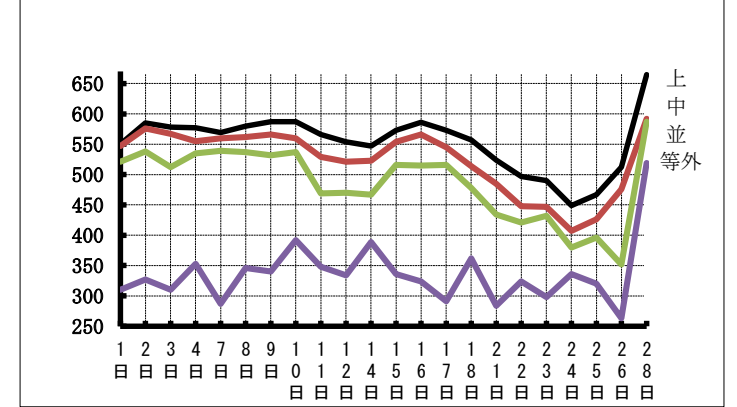
中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	67,300	547	523	1,013
15日	69,600	573	554	1,001
16日	69,400	586	566	797
17日	69,800	573	545	884
18日	73,000	557	514	1,012

中旬の全国と畜頭数は前年を上回ったものの、1日あたり6万9,800頭と7万頭を割り込んだ。当市場は、平均940頭の上場で前年並みの頭数であった。引き続きバラ、カタローズは好調であったが、学校給食も終了することからさらに荷動きは鈍くなった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	72,900	524	485	1,074
22日	75,500	497	448	1,139
23日	55,000	490	447	950
24日	76,500	449	407	1,120
25日	76,800	467	426	1,101
26日	39,600	512	476	1,053
28日	-	665	592	399

いよいよ年末を迎え、全国と畜頭数も7万頭を超える頭数となった。また当市場の上場頭数は平均1,070頭と前年並みの上場頭数となった。量販店では牛肉価格が高いこともあり豚肉への代替えを見込んだが、バラ、カタローズの引き合いが中心で全体的な盛り上がり欠けた年末であった。上物価格も520円から450円まで下がったが、28日の最終セリ上場が400頭と少なかった事もあり、665円まで暴騰した。

豚 日別相場表（12月）



＜1月の豚枝肉相場見通し＞

農水省による1月の全国と畜頭数は、145万1,000頭（前年同月比108.0%）と予測しており一日当たりの頭数は約8万5,300頭である。当市場の1月の集荷予定頭数は1万7,500頭となっており、一日当たり約1,000頭の見込みである。

一方、農畜産業振興機構による1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万3,700t（前年同月比118.1%）の予測となっている。内訳はチルドが2万6,000t（同136.6%）、フローズンは3万7,700t（同108.0%）の予測である。

また10月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万5,976t（前年同月比79.5%）、輸入品は14万7,983t（同73.8%）となり合計16万3,959t（同74.3%）となった。推定出回り量は16万553t（前年比94.5%）で前年を下回った。うち国産品は7万8,242t（同99.4%）輸入品は8万2,311t（同90.2%）であった。国内生産量は7万8,998t（同100.9%）と4か月ぶりに前年を上回った。

このような状況の中、1月は年末年始の休みがあったために上旬から中旬にかけて出荷頭数の増加が予測される。また昨年のような北米の港湾ストによる供給不足もなく、潤沢な供給が予測され、例年1月~3月は需要期ではなく落ち着いた相場展開が予測される。よって平均上物470円・中物440円前後を予測する。

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>